

宣言草案

茲に日本製鐵從業員組合昭和十年度大會に當り我等の方針を素直に宣言する。

世界情勢は依然として暗雲低迷し伊エ戦争を中心に全歐洲に漲る戦雲、露滿國境と北支に去來する極東の妖雲を繞つて世界戦争の危機は列國の排他的國家主義經濟對立激化の浪に乗り全世界を擧げて熾烈なる軍備擴張の競争を驅り立て、列國のインフレ政策の強行に依り澎湃として軍需景氣は最高潮に達してゐる。

我國に於ても國防事業の基本をなす製鐵産業は軍需景氣の浪に乗り歐洲大戰以來會つてなき好況を呈し、製鐵鋼の生産設備は擴張に次ぐ擴張を以てその利益配當の如きも民間會社に於ては二、三割、尠きも一割を下らざる暴利暴配を行つてゐる。幸にして日鐵會社の利益配當は法律を以て年六分に制限されてゐるのであるが、これは日鐵會社成立に當つて八幡製鐵所全從業員が製鐵國營の建前に立つて製鐵官民合同に對し劃期的大運動を以てした反對が、會社經營の上に國營精神を反映してゐるのであると言つても過言ではない。

然るに政府は製鐵國策を確定することなく八幡製鐵所從業員の日鐵會社成立に反對した當時の齋藤前首相、中島商相は民間製鐵會社の自由競争主義の經營が製鐵國營の精神に反するが故に官營民營の製鐵會社を打つて一丸となす製鐵會社を成立し、民間業者には熔鑛爐その他の生産設備の増新設は一切認可せず國家の監督、統制、命令にて國營と同一の精神を以て日鐵會社を經營し、重要産業の國營の精神に沿つて製鐵國策を樹立する聲明せるにも拘らず、岡田現内閣に至り町田商相はこれと全々相反する主張の許に製鐵事業の國家統制主義を排し自由競争主義を以て鐵國策となし國家重要産業を極めて脆弱なる基礎の上に置く危険極まる資本主義經營へ復歸せしめるが如き反動の方針を以て民間製鐵會社の熔鑛爐平爐の新設、増設を認可してゐる。

その結果は軍需インフレの好況に踊つて製鐵鋼生産設備の擴張競争を捲き起し、忽ちにして製鐵鋼の生産過剩を招來し、民間業者と日鐵會社の間に猛烈なる競争を惹起してゐる軍需景氣が永續的な好況に非ざることとは議論の餘地なきところにして、やがてインフレの反動が深刻なる不況となつて襲來するは火を賭るより明にして、この不況の大風は軍需事業の基本をなす製鐵業を最先きに襲ふことも亦極めて明白なる理にして事業縮少、工場閉鎖の悲惨なる事態に陥ることなしとは何人とも斷言するを得ず、その慘禍は製鐵労働者の失業、生活不安の死活問題となつて襲ひ來るは必然にして、我等はかゝる重大なる見透の下に、インフレの行き詰りの痛烈なる不況に備える強力なる方針を確立せねばならぬ。

我が日鐵從業員組合は結成以來撓みなき努力と幾多の困難を克服して内部組織を充實し八幡製鐵所に於ける單一労働組合としての陣營を整備し我等の前に全從業員を組織する途は開かれ、我が組合のみがこの道を進み得ることになつたが、その組織實數は尙全從業員の半數にも達してゐないのは甚だ遺憾である。我等は更に勇躍して全從業員の組織化に全力を傾けるは勿論であるが、只だ組織されたる從業員の團結の力を以て待遇福利に關する問題、從業員の生活向上に關する問題を解決するは言ふまでもないが徒に他力本願のみ依頼することなく、組合自からの福利共済の事業を以て組合員に利益と感謝と感激を與へ不斷に鋼鐵の如く組合に組合員を結合し、一朝不況に際して附和雷同し、從業員がなすことを知らざるが如き混亂動搖を斷じて起さしめず、強力に全從業員を組織統制し、その實力を以て政府並に日鐵會社に對し、製鐵國營の精神に則して、事業の經營を警告、監視し産業協力を指導精神とする健全なる労働組合と全國的に相提携し、これ等僚友團體と共に國家産業の維持、發展平和に協力の赤誠を盡し、飽くまで製鐵國營の信念を以て製鐵産業の健全なる經營と從業員大衆の生活を擁護する用意と準備を完成しインフレの反動に來るべき深刻なる不況に際し全從業員に些の不安、動搖を與えざる確固たる方針を以て日鐵從業員組合結成の目的達成へ一往邁進するものである。

昭和十年十月三十日

日本製鐵從業員組合昭和十年度大會